

令和元年度後期学校評価表										愛南町立城辺中学校										評価資料	到達率 [肯定評価(3,4)の割合]	アンケート結果(人数)																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
重点目標		評価指標及び目標値		評価	学校による考察<◇>及び改善策等<◆>	A					B					C						D					?																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
						A:よくあてはまる					B:あてはまる					C:あまりあてはまらない						D:まったくあてはまらない					?…判定できない																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																									
生徒指導の徹底と健全育成	生徒理解の充実	生徒理解に努め、子どもの課題に積極的に対応している。	目標値:アンケート結果80%以上達成	中間期	A	◇あゆみを通した指導や学校生活アンケート、定期的な教育相談等を通して個々への支援を行った。また、生徒指導部会を毎週開き、配慮等を要する生徒の情報交換や指導方針の確認を行い、それを全職員で確認し、一人一人の生徒に応じた指導や支援を続けている。その結果、アンケートでも目標値を達成することができた。	◆生徒においては大きな指導上の問題もなく、大半の生徒が楽しく充実した生活を送っている。しかし、その中でも学校生活に適應できない生徒も若干ではあるが見られる。そのような生徒にも目を向け、悩みや願いを聞く機会を確保し、心情に寄り添う指導・支援を行うとともに、家庭と協力しながら指導していく。	教職員	1	100%	14	10	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																					

人権・同和教育の推進	学校生活を通し、人権意識の高い生徒を育てている。 目標値:アンケート結果80%以上肯定	中間期	A	◇人権について理解し、自他ともに大切にすることができていると感じている生徒が多くなっている。同和問題学習にも自分事として考える生徒が増えてきた。生徒・保護者の評価は上昇している。 ◇体験的な学習や学年、学級の計画的な取組など、人権・同和教育の成果が見られる。	教職員	5	96%	4	19	1	0	0	
				◆体験的な学習の成果の共有などを行い、確固たる人権意識の醸成を目指していく。 ◆年間指導計画の点検や見直しを行い、道徳や教科や行事などとの関連も意識していく。 ◆正しいネットの情報・知識・環境について、活用の仕方やマナーを繰り返し指導していく。	保護者	5	92%	32	86	10	0	1	
				地域住民	3	100%	8	18	0	0	3		
				生徒	5	95%	91	51	7	1	1		
		後期	A	◇総合的な学習の時間等で人権学習に取り組み、体験的な学習や学年、学級の計画的な取組により、人権・同和教育の成果が見られた。 ◇道徳や特別支援教育、生徒指導など、全教育活動において、人の平等、一人一人の権利を守ることを共通認識とし、人権尊重の意識を高める指導に努めている。	教職員	5	91%	3	18	2	0	0	
				◆教職員が積極的に校内外での研修を行い、正しい理解をし、自信を持って人権・同和教育の先駆者となるための学びを継続していく。 ◆部落差別解消法の内容を正しく理解し、正しいネットの情報・知識・環境について、活用の仕方やマナーを繰り返し指導していく。	保護者	5	97%	26	91	4	0	0	
				地域住民	3	93%	7	18	2	0	4		
				生徒	5	96%	92	53	5	1	0		
	特別支援教育の推進	障がいのある生徒に対して、学校全体で支援している。 目標値:アンケート結果80%以上肯定	中間期	A	◇ 教職員、保護者、地域、生徒ともに90%以上を達している。教職員・保護者に関しては、「よくあてはまる」よりも「あてはまる」と感じている人数が多い。教職員の中には、普通学級における発達障害の生徒への理解が足りていないとの意見があった。 ◆普通学級において、授業のユニバーサルデザイン化に加えて、各々の生徒が持っている困難な部分への対応が必要である。 ◆特別支援学級と普通学級において、交流の機会を持つことで理解を広げていかなければならない。	教職員	6	100%	9	15	0	0	0
					保護者	6	96%	51	73	4	1	0	
					地域住民	4	96%	12	12	1	0	4	
					生徒	6	93%	93	47	10	1	0	
			後期	A	◇ 教職員、保護者、地域、生徒ともに90%以上に達している。教職員・保護者に関しては、「よくあてはまる」よりも「あてはまる」と感じている割合が多い。教職員は、特別支援学級生徒との積極的に関わり持つことができおり、また、関りをなかなか持てていない教職員も「もっと関わっていきたい。」と考えている。 ◆特別支援学級と普通学級において、交流の機会を持つことで理解を広げていく。2年生が受けた「障がいと障がい者への理解を深める学習会」のような人権にかかわる学習を体系的に取り入れる。	教職員	6	100%	12	11	0	0	0
					保護者	6	98%	50	68	2	0	1	
					地域住民	4	100%	10	13	0	0	8	
					生徒	6	95%	97	46	6	1	1	

| 学校運営協議会委員の所見 | ・全体的に高い評価であり安心している。 ・最も大きく、対応が困難であると思われるのはSNS等ネット上のトラブルではないだろうか。大人の見えないところでの問題であり、また、子どもが十分に使いこなせていないことによって生じるトラブルの問題でもある。学校で設けたルールを見直したり、生徒会でルールを設けたりすることも必要である。そして、即効性はないかもしれないが、それらを繰り返し呼び掛けていくことが必要である。 ・子ども向けの動画サイトもあるようだ。ゲームに興じている生徒も多いだろう。それらネットの使用時間を把握していくことも大切だと思う。 ・校外での生徒の様子は良好であると感じている。 | | | 学校の対応 | ・ネット使用の問題に関しては、保護者が集まる機会や学校通信、学級通信などでも啓発していく。また、「eーネットキャラバン」などの取組も継続したい。また、使用時間の把握については検討をし、何らかの対応をしていきたい。 ・今年度より通学規定が変わり、距離に関わりなく自転車通学ができる。そのことによって登下校の危険も高まっているのではないかと危惧している。通学経路の再点検をしていく。 | | | | | | |

確 か な 学 力 の 定 着 と 向 上	指導方法の改善・充実	個に応じた指導を工夫し、分かる授業の充実に努めている。 目標値:アンケート結果80%以上肯定	中間期	A	◇学習指導については、教職員が「わかる授業」の充実を意識した取組をしており、保護者、生徒も概ね満足している様子がある。 ◆年度当初計画している研究授業を実施し、教職員相互に学ぶ機会を設けている、今後は研究協議の時間確保など、更に授業改善に向けての研修を充実させる必要がある。	教職員	7	100%	10	14	0	0	0		
						教職員	11	100%	8	16	0	0	0		
						保護者	7	92%	31	88	10	0	0		
						保護者	11	93%	38	81	7	2	1		
						生徒	7	93%	95	46	9	1	0		
			後期	A		◇教職員は授業改善の視点を大切にし、実践研究を積み重ねており、多くの生徒が教職員の授業での工夫を感じている。しかし、十分に理解できていないと感じている生徒、保護者が前期より若干増えていることが気掛かりである。 ◆生徒の疑問や要望をより確かに把握し、授業改善に生かしながら、より個に応じたきめ細かな配慮をした教科指導を継続していく。また、校内での研究授業を行い、切磋琢磨しながら授業力の更なる向上を図っていく。	教職員	7	100%	12	11	0	0	0	
							教職員	11	96%	6	16	1	0	0	
							保護者	7	82%	28	70	22	0	1	
							保護者	11	92%	28	83	8	2	0	
							生徒	7	89%	78	56	16	1	0	
	基礎・基本の定着	基礎的・基本的な学習内容の定着を図っている。 目標値:アンケート結果80%以上肯定・小テストや単元テストの各教科平均70点以上	中間期	B	◇チャレンジ学習や長期休業時、放課後を利用した補充学習への取組等、有効な取組がなされているように思われる。昨年度の同時期に比べ、保護者、生徒ともにやや評価は上がっている。定期テストにも基礎・基本の内容を盛り込むことで、成果も徐々に見られるようになっている。 ◆チャレンジ学習を今後も継続、発展させるとともに、より個に応じた取組を工夫しながら学習に根気強く取り組ませる。		教職員	8	100%	14	10	0	0	0	
							保護者	8	81%	23	80	23	1	2	
							生徒	9	75%	49	64	36	2	0	
			後期	B			◇教職員は基礎的・基本的な学習内容の定着のために日々の学習指導のスキルアップに努め、また、自主学習を基盤とする個々の家庭学習の充実のための有効な手立てを模索している。しかし、定期テストなどで目に見える成果として表れていない生徒が少なからずいることがやや低い評価につながっていると考えられる。 ◆I C T機器の有効な活用など、指導方法の工夫を重ね、日々の学習指導の質の向上を目指していく。また、学習の振り返りにも更に工夫を加え、反復練習などで生徒の習熟度に応じた指導を心掛けていく。	教職員	8	100%	12	11	0	0	0
								保護者	8	73%	16	71	31	1	2
						生徒		9	70%	40	65	38	8	0	
	思考力・表現力の育成	自ら考え、主体的に表現しようとする生徒を育てている。 目標値:アンケート結果80%以上肯定	中間期	B	◇教員は、思考力・表現力を育てる授業の展開に努めているが、生徒・保護者との数値の差から、その成果がまだ十分に浸透していない。主体的な発表ができていないと考えている生徒もいることから、グループやペアなどの小集団活動が表現力の育成として有効に機能するよう工夫していく必要がある。 ◆生徒が興味・関心を持って、意欲的に考え表現したくなるような題材を取り入れるなど授業改善に取り組むとともに、授業だけでなく学校生活の中でも自分の考えを表現したり、友達の意見や考えに触れたりできる場を設定する。	教職員		9	92%	4	18	2	0	0	
						保護者		9	75%	22	72	31	1	3	
						生徒		10	69%	41	63	39	7	1	
			後期	B		◇中間期からあまり変化はないが、保護者・生徒の評価はやや向上している。校内の研究授業を通して様々な学習形態の導入やI C Tの活用など、生徒が互いに学び合い、主体的に発言できる工夫や手立てをとったためと考えられる。 ◆朝読書やコラムを読むことを継続して行うことによって言語感覚を養うとともに、授業では、今後も主体的に思考・表現する学習場面を増やしていく。また、特別活動などを生かして、主体性や日常的な表現力の向上を図る。	教職員	9	91%	9	12	2	0	0	
							保護者	9	77%	14	78	26	1	2	
							生徒	10	71%	49	58	37	7	0	
	家庭学習の習慣化	生徒に家庭学習の習慣が身に付いている。 目標値:家庭学習時間毎日90分以上(塾での時間も含む)達成80%以上	中間期	C	◇この項目については改善が必要である。チャレンジ学習や補充学習等で課題の与え方は工夫を加えているが、まだまだ機能していない。 ◆家庭学習については、個人差が大きい。保護者、生徒ともにアンケート結果に個々の状態について差異がある。習熟度や本人の興味、関心に応じた家庭学習の在り方を考察する必要がある。 ◇この項目については全体に評価が低い。中間期の評価結果を受けての学校運営協議会では、「部活動等で多忙な面もある。生徒は頑張って学習していると思う。調査としては評価基準の再検討も必要である。」という意見もいただいたが、家庭学習の習慣に対する個人差は大きいのが現実である。 ◆日々の自主学習としてのチャレンジ学習については、全員が同じプリントで学習することと自主学習ノートで個人の興味・関心に応じた学習することとのメリットやデメリットを再検討し、自主学習ノートに移行した学年もある。今後もより効果的な手立てを考えながら家庭学習の意義や学習時間確保について生徒の意識を高めていく必要がある。		教職員	10	75%	0	18	6	0	0	
							保護者	10	55%	22	49	51	7	0	
							生徒	11	60%	37	53	41	20	0	
			後期	C		教職員	10	57%	1	12	10	0	0		
						保護者	10	57%	25	43	49	3	1		
						生徒	11	66%	38	61	31	21	0		

学校運営協議 会委員の所見	・家庭学習の取組に工夫を重ねていることがよく分かった。 ・自主学習ノートについては「ノートコンテスト」の実施や掲示など、何らかの形で生徒同士が刺激を与え合う機会を設けてはどうか。プリントを用いた場合、学力が上位の生徒にとっては時間はあまり必要ではない。また、下位の生徒にとっては答えを写すだけになってしまうのではないかと感じる。 ・「義務的な宿題」と「自主的な学習」、生徒に知恵を使わせる手法を考えていくべきである。	学校の対応	・チャレンジ学習については、学年の実情に応じた形で取り組んでいるが、その成果を検証できる手立てを考えたい。 ・宿題については、チャレンジ学習に頼り過ぎないように、その量や質等について教科部会でも検討し、バランスよく与えていきたい。 ・学習指導においては、これからも互いの授業公開を通して切磋琢磨していきたい。その中でICT機器使用のスキルを高めていく。 ・朝読書やコラムを通じて、読解力、思考力・表現力を高めることに力を注いでいく。

特色ある学校づくりの推進	愛さつ城辺の推進	あいさつがよくできる生徒を育てている。 目標値：アンケート結果80%以上肯定	中間期	A	◇ 評価の数値はどれも目標値は達成できている。これは、生徒会を中心としたあいさつ運動など、先輩の姿を見た1年生が自分たちも気持ちのよい挨拶をする意識が高まってきたこと、また、部活動での指導などの成果と考えられる。 ◆ 一方、目標値は達成できているが、「校外ではあいさつの声が小さい、あいさつができない」生徒に対する意見も見られる。できる生徒だけでなく、今までできていない生徒が、気持ちの良いあいさつができる、生涯の宝になる力を身に付けさせることが課題である。いつでも、どこでも、気持ちの良いあいさつができ、温かい人間関係を築ける生徒を育てていく必要がある。	教職員	12	96%	9	14	1	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
						保護者	12	91%	39	79	10	1	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
						地域住民	9	86%	13	11	4	0	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
						生徒	12	91%	87	51	8	5	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
		目標値：アンケート結果80%以上肯定	後期	A	◇ 「あいさつがよくできている。」と評価している保護者が増えている。また、地域の方々から「城辺中の生徒はよくあいさつをする。」という意見もいただいている。学校においても朝から気持ちのよいあいさつの声が聞かれる。 ◆あいさつの効果を実感させ、心を育てることを意識しながら、時と場に応じたあいさつができるように指導していく。 ◆全校や学年、学級、授業、部活動、休み時間など、様々な場面で全教職員が歩調を合わせ、粘り強く指導を続けていく。	教職員	12	83%	6	13	4	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
						保護者	12	91%	45	65	11	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
						地域住民	9	83%	12	13	4	1	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
						生徒	12	91%	94	43	8	6	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
	行事・諸活動の充実	感動のある学校行事や生徒の変容・向上を図る活動が行われている。 目標値：アンケート結果80%以上肯定	中間期	A	◇学校における業務改善に伴い、行事の精選をしていく中で、各行事の内容の充実を図っている。学校運営協議会、PTAが果たしているそれぞれの役割も高評価の大きな要因であると捉えている。 ◆今後も引き続き充実した学校行事を目指していくが、その中で地域の力をいかに取り込んでいけるかが大切である。	教職員	13	100%	10	14	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
						保護者	13	95%	40	82	5	1	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
						地域住民	10	100%	7	21	0	0	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
						生徒	13	94%	80	62	7	2	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
		目標値：アンケート結果80%以上肯定	後期	A	◇中間期に引き続き高い評価を得ている。行事の多い2学期は、学級、学年、縦割りなどの様々な集団で活動し、多くの成功体験をしたことが大きな要因であると捉えている。 今年度初めて試みた地域と一体になった避難訓練「避難所運営体験」では、公民館や地域の消防団、自主防災会などのバックアップもあり、大変有意義な活動にすることができた。 ◆これからも新生徒会の主体性を尊重しながら、教職員もしっかりと支援をし、特色ある取組を作り出していきたい。 行事の精選など業務改善を進めていくとともに、実施する行事の質の向上に努めていくことが学校の責務だと捉え、地域貢献にも努めていく。	教職員	13	100%	13	10	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
						保護者	13	95%	48	67	6	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
						地域住民	10	100%	15	14	0	0	2																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
						生徒	13	96%	107	38	5	1	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																														
地域との連携	情報発信や参観日、懇談会などを通して開かれた学校づくりを実践している。 目標値：アンケート結果80%以上肯定	中間期	A	◇アンケート結果のとおり、ホームページの更新や各種通信等で学校の情報を提供していることが地域に開かれた学校への一歩になっている。学校行事に足を運んでいただく地域の方も今年度に入り、増加傾向にあることがありがたい。 ◆学校行事の際などに、地域の方が学校に足を運んでくださっていることが大変ありがたいが、更なる増加を目指すための手段を考えていくことが学校の責務であるとする。	教職員	14	100%	16	8	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
					保護者	14	96%	47	77	5	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
					地域住民	11	97%	12	16	1	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
					地域住民	12	100%	12	16	0	0	1																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
	目標値：アンケート結果80%以上肯定	後期	A	◇この項目でも中間期同様、高い評価を得ている。学校行事等が学校の様子を知っていただくよい機会となったと捉えている。また、ホームページ、各種たより等で学校の取組をタイムリーに発信したことも大きなプラス要因だと考える。 ◆開かれた学校づくりを進めていくなかで、学校の役割を考え、また、地域の願いをより確かに把握し、将来の地域を担う生徒の育成に努めていく。	生徒	14	89%	90	45	14	2	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
					教職員	14	100%	17	6	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
					保護者	14	95%	46	69	6	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															
					地域住民	11	100%	13	18	0	0	0																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																																															

健康・安全 教育の推進	健康教育の推進	食育や保健指導を通して、健康的な生活をしようとする生徒を育てている。 目標値：アンケート結果80％以上肯定	中間期	A	◇教職員、保護者、地域、生徒ともに80％以上の達成率である。食育は、栄養教諭の作成掲示した資料が、随時更新され、生徒が興味を持って見ている。また、給食時に教室を巡回し、献立の説明をすることで、栄養面への意識付けができています。 ◆来学期は栄養教諭や養護教諭の専門性を生かしながら生徒に具体的に指導を行うことに力点を置きたい。また、「お弁当の日」を設け、給食委員会が主体となり、生徒が自分で考え、自分で作る「お弁当の日」を運営していく。	教職員	15	96%	11	12	1	0	0
						保護者	15	98%	31	95	3	0	0
						地域住民	13	91%	5	15	1	1	7
						生徒	15	84%	79	48	18	6	0
		後期	A	◇教職員、保護者、地域、生徒ともに高い達成率である。中間期同様、食育は、栄養教諭の作成掲示した資料が、随時更新され、生徒が興味を持って見ている。また、給食時に教室を巡回し、献立や食材の説明をすることで、栄養面への意識付けができています。2学期は給食委員会、保健委員会合同で食と健康に関する集会を開催し、生徒への啓発を行った。 ◆給食時に教室を巡回し、継続して食育指導を行う。 ◆定期的に生活習慣等の実態を把握し、指導を行う。	教職員	15	100%	14	9	0	0	0	
					保護者	15	94%	46	67	7	0	1	
					地域住民	13	100%	7	20	0	0	4	
					生徒	15	84%	76	50	19	5	1	
	防災教育の推進	防災教育を進め、安全・防災意識の高い生徒を育てている。 標値：アンケート結果80％以上肯定	中間期	B	◇アンケートの結果から、保護者、地域住民、生徒ともに目標値を上回っているが、教職員からの評価は目標値に達していない。4月に実施した避難場所の確認は、各地区で行ったものの、校内における避難訓練は実施できなかったことが影響していると思われる。 ◆来学期は、前期末実施であった避難訓練等、実践的な訓練を行う予定である。 ◆学校運営協議会とも連携しながら、防災を中心とした訓練や体験活動を実施し、より身近な防災へ意識を高めて行く機会を増やす。	教職員	16	71%	3	14	7	0	0
						保護者	16	96%	29	94	5	0	1
						地域住民	14	83%	5	15	4	0	5
						生徒	16	89%	91	44	13	3	0
		後期	A	◇前期に比べ、避難訓練の実施やシェイクアウトえひめと連動した訓練の実施等が成果数値として表れている。とりわけ学校運営協議会と連携した避難所の設置訓練は、地域住民、消防団、自主防災会など、多くの団体との共同実施だったことで、生徒だけでなく地域ぐるみの防災教育として意識も高まったのではないかとと思われる。 ◆今後も、学校独自の訓練の在り方や地域と共にある訓練の在り方を模索し、学校運営協議会やPTA、関係機関と連動しながらより深まりのある防災教育を実施していく。	教職員	16	96%	7	15	1	0	0	
					保護者	16	94%	45	69	7	0	0	
					地域住民	14	100%	13	16	0	0	2	
					生徒	16	93%	97	44	8	2	0	
	部活動の充実	部活動に進んで参加し、自主性・協調性・責任感・連帯感等の高い生徒を育てている。 目標値：アンケート結果80％以上肯定	中間期	A	◇すべてのカテゴリーで80％以上を達成している。大きな問題もなく、スムーズな部活動運営がなされてきたと言える。また、生徒も意欲的に取り組み、目標を持って活動に励むことができたと考えられる。 ◆部活動ガイドラインに従うことで昨年度より休日が多くなった部もある。保護者や地域を含め、ガイドラインの趣旨を理解していただけることを期待したい。また、限られた時間の中で指導していく顧問の姿も少しずつ変わっていかなくてはならないと感じる。	教職員	17	100%	9	15	0	0	0
						保護者	17	94%	47	74	7	1	0
						地域住民	15	100%	10	15	0	0	4
						生徒	17	94%	98	44	6	3	0
		後期	A	◇引き続き高い評価を得ている。これは運動部においては、総体や新人総体を中心に各種大会で着実に練習の成果を発揮し、よい結果を残していること、吹奏楽部においては文化祭や音楽発表会などで立派な演奏を披露できたことが大きな要因ではないと思われる。 ◆今後も部活動ガイドラインに沿った取組を続けていくとともに、保護者や生徒のニーズにも配慮しながら生徒が充実感を味わえる取組にしていく。	教職員	17	100%	13	10	0	0	0	
					保護者	17	91%	45	64	11	0	1	
					地域住民	15	100%	12	16	0	0	3	
					生徒	17	91%	102	32	12	1	1	
学校運営協議会委員の所見	・部活動での活躍はすばらしく、うれしさを感じるとともに、先生の苦勞に頭が下がる思いである。これからは業務改善を進めながら生徒や保護者のニーズに応えていってほしい。 ・防災学習では「避難所運営体験」という大きな取組があったと思うが、学校独自で行う避難訓練も様々な工夫をすることで、生徒の実践力を養ってほしい。 ・「食」に関する指導は、栄養助教諭の取組を聞いてすばらしいと思った。何事も体が資本だと思うので、「食」を含めた健康指導を更に推進してほしい。				学校の対応	・部活動については教育委員会より示されガイドラインに沿って進めていく。その中で生徒が満足できるものを残していきたい。 ・外部コーチを正式に導入してもらい大変助かっている。これからは外部コーチの増員、業務の拡大を教育委員会に働き掛けたい。 ・防災教育については大きな取組を続ける目途がたったが、校内で行う訓練にも工夫を加えながら自助・共助の意識を高めさせたい。							